

- p.xii 6.4 節のタイトルから ♠ を削除
- p.19 中段ぐらい
 - (i) 全ての物理量，即ち可観測量が，各瞬間瞬間に，定まった値を持つことはない。
↓
 - (i) 全ての物理量が各瞬間瞬間に定まった値を持つことは，一般にはない。
- p.46 中段ぐらい
 -これらの任意の線形結合がまた $a = 1$ に属する固有ベクトルになることを利用して，.....
↓
 -これらの任意の線形結合がまた $a = 1$ に属する固有ベクトルになる．これを利用して，.....
- p.82 3 行目
交換関係
↓
交換子
- p.88 中段ぐらい
自己共役でない演算子がどの程度測れる量かは
↓
自己共役でない演算子で表される物理量がどの程度測れるかは
- p.89 (3.208) 式の末尾に追加
for all a, b, k
- p.89, (3.208) 式の2行下
.....それらを区別するラベルである．このベクトルを.....
↓
.....それらを区別するラベルである (b, k の組が 3.7 節の l に相当する)．このベクトルを.....
- p.102 要請 (5) の直後の文
この要請の意味を，前にかかる係数と射影演算子の作用に分けて説明しよう．まず前にかかる係数は，測定値 a を得る確率 $P(a)$ を用いて.....次に，射影演算子の作用であるが，(3.100) で見たように， $\hat{P}(a)$ をかけることは，.....
↓
測定には有限の時間がかかるので，「直前」から「直後」の間には時間が経過し，その間に状態は様々に移り変わるのだが，理想測定でありさえすれば，直後の状態は (3.242) になるというのだ．前にかかる係数は，測定値 a を得る確率 $P(a)$ を用いて.....また，(3.100) で見たように，射影演算子 $\hat{P}(a)$ をかけることは，.....
- p.107 脚注 49
詳しくは，本書の続編の「量子論の発展」(仮題)で解説する予定である．
↓
量子測定理論の要点は，K. Koshino and A. Shimizu, Physics Reports 412 (2005) 191 の第4節に書いた．

- p.256 問題 5.4 解答の最後に次の文を追加

なお, $\delta x, \delta p$ をかけ算してみると, 不確定性関係 $\delta x \delta p \geq \hbar/2$ の等号を満たしているので, 最小不確定状態 (p.181) になっている.

- p.194 6.4 節のタイトルから ♠ を削除